

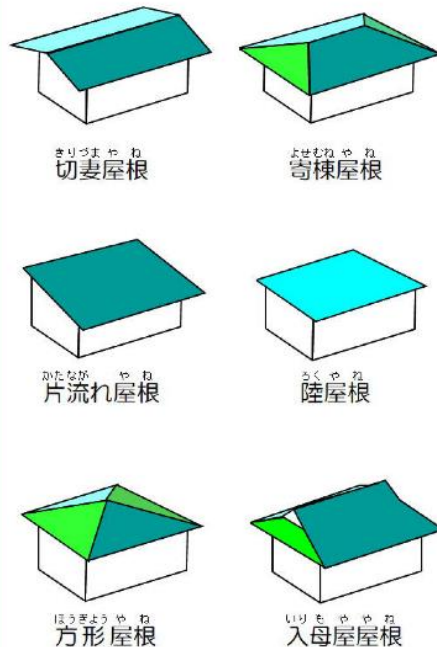


## 屋根の形(やねのかたち)

屋根は、雨や雪、強風や太陽の日差し、気温の変化などから、私たちや家の中のもの、壁などを守るのが役目です。

また、その土地の風土によって、雪に強い形、風に強い形など、さまざまな屋根の形があります。

桐生新町の町屋では、切妻屋根と寄棟屋根が多く見られます。

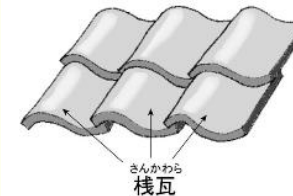


## 棧瓦葺き(さんかわらぶき)

瓦は、洋の東西を問わず、屋根葺き(屋根の表面を覆うこと)に用いられてきました。日本では、約1400年前に飛鳥寺で初めて使われたそうです。当時は、平瓦と丸瓦を交互に組み合わせて並べる葺き方で、「本瓦葺き」といい、主に城郭や寺社建築に用いられてきました。本瓦葺きは、重厚感はありますが、屋根重量が重くなるのが欠点です。

延宝4年(1674)に瓦職人の西村半兵衛が丸瓦を必要としない「棧瓦」を開発したと言われています。これにより、瓦を用いる量が減り、さらに耐火建築用品として幕府や藩が瓦の使用を奨励するなどしたため、一般にも普及することになったそうです。

## 棧瓦葺き(さんかわらぶき)



## 本瓦葺き(ほんかわらぶき)

